

# 音 楽 科

鏡 千佳子

研究協力者 篠原 秀夫(金沢大学)

## 1. ESDを進めるにあたって

今日、新聞やニュース、テレビ番組など、いたるところでESDという言葉を目にするようになった。本校でも昨年度よりESDの研究に取り組むこととなり、音楽科がどのようにESDに関わっていけるか考えてみた。音楽は世界の国々やどの地域にもあり、自分の身近なところにもあふれている。どの楽曲をどのように扱うか、今まで行ってきた授業実践をESDの視点から捉え直し、考えてみることで、音楽の授業がどのようにESD教育に関連していけるかが見えてきた。平成26年度は鑑賞領域において、様々な背景を持つ音楽の価値を尊重する態度を育みたく、持続可能な社会づくりの構成概念の「I多様性」に関わる、国際理解や文化理解の視点で授業を構築した。また学習したことを一番身近な存在である家族に紹介することで、多様な立場の人や世代ともつながっていけるような授業を目指した。授業で学んだことにより、生徒たちが、文化の継承、発展、創造の担い手になることができることを、生徒自身、家族が実感するきっかけになったのではないかと考える。平成27年度は音楽に出合った時点での価値意識だけに留まらず、多様な情報や考え方を知ることによって自分にとっての新たな価値を見いだす手立てにつながる授業を構築したいと考えた。これから先、音楽だけでなく様々な場面で「自分にはよさがわからない」という場面に出会うことがあると想定される。21世紀を生きていく上で、自分の価値判断だけでなく、多様な価値観を尊重する力を身に付け、国立教育政策研究所が示している21世紀型能力の「自立的活動力」「人間関係形成力」「社会参画力」「持続可能な未来への責任」などの実践力につなげていきたい。

## 2. 能力・態度の育成にあたって

### (1) 中心的に扱う能力・態度について

音楽科において、1.で述べたような授業を考えていく中で、ESDの視点に立った学習視点で重視する能力・態度のうち、特に「③多面的、総合的に考える力」を重視した。実践するにあたり、学習指導要領に示されている音楽科の目標及び内容（第2学年及び第3学年）の、

- |  |
|--|
| <p>ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。</p> <p>ウ 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して、鑑賞すること。</p> |
|--|

に着目し、歌舞伎と能のそれぞれのよさを考えながら比較し、何百年と続いてきている日本の文化の価値を考えることにつなげた。能がなぜ現代も受け継がれ、残っているのかを「ずっと昔から受け継がれてきたものだから、これからも伝承していかなければ」とするのではなく、「なぜ残っているのか」という視点で考えた時、「どこが良いかわからない、なぜ残っているのか疑問だ」という意見をもつ生徒がいることも考えられる。この時に、「自分は良いとは思わないけれど、きっとこういう部分を良いと感じる人もいるのだろうな」と考えることも「③多面的、総合的に考える力」につながるのではないかと考えた。(実践事例1)

また、ベートーヴェンの交響曲第5番の魅力に迫る授業では、学習指導要領に示されている音楽科の目標及び内容（第2学年及び第3学年）の、

- ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。
- イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連づけて理解して、鑑賞すること。

に着目し、数学科の学習内容である「図形の移動」や「対称」を意識した授業を行った。ピラミッドやモスクなどの世界遺産が同じ形の平行移動や回転移動、線対称や点対称で創られている点と、運命の動機が繰り返して出たり変化して出たりして創られているというところをつながりを意識した。建築物も音楽も、同じものがいくつも重なって全体的な美を創りだしているということに気付くような授業展開にした。また世界遺産のみにとらわれず、身の回りにも同じように作られているものがあることにも気付くようにした。この授業では、音楽だけにとらわれず、様々な情報を得たり今までとは違った見方をすることによって新たな価値が見いだされ、「③多面的、総合的に考える力」につながるのではないかと考えた。（実践事例2）

## （2）従来の研究とのつながりについて

それぞれの音楽のよさや美しさ、自分にとっての価値判断と友達の価値判断を共有することで、新たな価値を見いだすための言語活動が行われ、多様な価値観を尊重する力や音楽文化を尊重し、その持続発展を考える力などの思考力が育まれると考える。また友達の価値判断を聞くことにより、形成的評価にもつなげられると考える。

## （3）教材の「つながり」について

今年度は、1.の「ESDを進めるにあたって」でも述べたように、多様な情報や考え方を知ることによって自分にとっての新たな価値を見いだす手立てにつながる授業を構築し、鑑賞の領域においてESD教育の実践を行うこととした。我が国の伝統音楽である「能」と「歌舞伎」を題材に、社会科や国語科との内容的な「つながり」、地域、社会との空間的な「つながり」、過去・現在・未来の時間的な「つながり」を目指し、過去に築かれた音楽文化や伝統を尊重し、その持続発展に貢献しようとする実践を行った。また「交響曲第5番」では、数学科との内容的な「つながり」、国・世界との空間的な「つながり」、過去・現在・未来の時間的な「つながり」を目指し、芸術作品を部分と全体の両側面から認識できる実践を試みた。

〔参考文献〕：「ESD（持続発展教育）としての音楽科教育－中学校鑑賞領域の場合－」宮下俊也、大熊信彦  
：「ESDとしての音楽鑑賞授業 実践ガイドブック」宮下俊也  
：『中等教育資料』No. 951 p 85「生徒にとって意味のある音楽の授業実践に向けて」臼井学

#### 4. 成果と課題

##### (1) 実践事例1の成果と課題

この授業では、能も歌舞伎も同じ内容を扱った『船弁慶』を用いて授業を行った。授業では、～そのとき義経～から始まる場面を比較し、能と歌舞伎の違いを理解し、能の特徴について考えた。それぞれのよさを考えることで、全員が能のよさについても自分なりの考えをもてるようにした。  
(生徒のワークシートより)

●歌舞伎と能のどちらか気に入った方を選び、その理由を書きましょう。また、選ばなかった方のよさや魅力についても考えて書きましょう。

私・僕は 能・歌舞伎 の方が気に入りました。  
その理由は、能とは産って面をつけていぬいことから、表情を比較的洗み取りやすくなっていて、また三味線の音が演じている人の荒々しさもさらにかえるようになっていて、聞いているととてもしびみしたイメージを受けると感じられるようにあっているからです。  
しかし、能・歌舞伎 も次のようなよさや魅力があると思います。  
なぜなら、いかにシンプルにするかということでも単純だが、構像するような余地も残っていて、奥底から聴衆に伝えたいことを伝えようとしていることが聞いていると感じとれ、透きぬくと味わい深いようになっているからです。

●能と歌舞伎のどちらか気に入った方を選び、その理由を音楽の面にも触れて書きましょう。また、選ばなかった方のよさや魅力についても考えて書きましょう。

私・僕は 能・歌舞伎 の方が気に入りました。  
その理由は、あまりロ楽らずスッと動くような感じが「日本のわびさび」といってわらいたような感じを感じさせられているからです。また音楽も太鼓のリズムが心に響いてくるようなたったのもよかったです。  
しかし、能・歌舞伎 も次のようなよさや魅力があると思います。  
能のはやれに三味線も足すことでメロディーにも風味があっていいと思  
ました。また、役者の人が技を出してときに相手のわきあこるというのも  
いい常態気だと思ひます。

本校の中学生にとって、能は「つまらない」「眠くなる」「一部の人が観て楽しむもの」という印象がほとんどで、自分には関係ない遠い世界のものだと感じている生徒が多くいたが、能と歌舞伎、両方のよさを考えることで、「自分は良いとは思わないけれど、きつとこういう部分を良いと感じる人もいるのだろうな」と、能の魅力について自分なりに考えることができたように思えた。また、友達のを聞くことで、音楽のよさや魅力にはさまざまな捉え方があることを知り、自分とは異なる考えをもつ人を尊重することで、自分にはなかった新たな価値が見いだされ、他文化を理解することや、他者を理解することにつながっていくと感じた。これは音楽だけに限らず、様々

な場面で必要となる力である。この授業の後に県立能楽堂にて実際に能を鑑賞し、能の舞台上で演奏される鼓や能管の音、謡いの響きを直接感じ取った。

今回の授業では、総合芸術として能と歌舞伎の魅力について考えたが、それぞれの音楽に焦点を当てて違いを明確にしたり、謡や楽器編成など、なぜこのように発展したのかについても考えるような授業も大切である。

## (2) 実践事例2の成果と課題

この授業では、運命の動機が繰り返し出てきたり変化して出てきたりして創られているというところで、数学科の学習内容である「平面図形」とつながりを意識した授業を行った。建築物も音楽も、同じものがいくつも重なって全体的な美を創りだしているということに気付くような授業展開にした。また世界遺産のみにとらわれず、身の回りにも同じように作られているものがあるということにも気付くようにした。

〈生徒のワークシートより〉

♪ベートーヴェンが「交響曲第5番ハ短調 第1楽章」にしかけたものはどのようなものでしたか？

【運命の動機】という言葉を使って書きましょう。また、音楽以外でこの曲と同じようにつくられているものを一つ例に挙げて、「交響曲第5番ハ短調 第1楽章」とどこが共通しているか書きましょう。

「運命の動機」をたくさん入れることにより曲全体にまとまりを持たせている。そして、聞いている人も同じものがあることによりのリズムから、あちこちに入れているのだと思います。同じリズムだけと音程と変えることにより、曲を生み出している。これと同じようなものを「物で」見ると「サンドウイッチ」と思いますが、音程の違いが鼻の違いで、一つ一つ個別に見るとはげなく、まとめて見るとおいしいのと同様に全体を聞くとまとまりがあり、良い曲と思えるのだと思います。

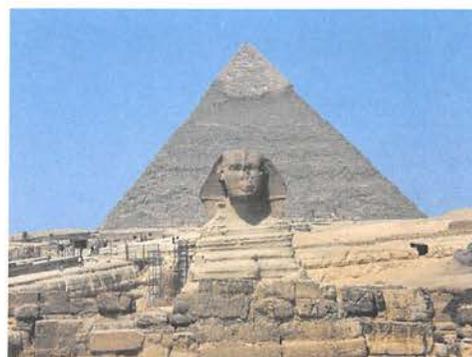
運命の動機を音の高さを変えて繰り返し使ったり、また、形が同じ感じに形を変えたりすること、部分部分が様子は違いますが、どこか統一性のある曲に感じました。音楽以外のところにも目を向けると、数学の時間で学習した世界遺産のオペラハウス。これは、同じような形はあっても大きさや形が、それを組み合わせることで外観が美しく見えるものになった。同じような形、違ったものであっても、並べたり組み合わせると統一性のあるものになる。その点で「交響曲第5番ハ短調 第1楽章」の、運命の動機の使われ方と、オペラハウスに見られる上り部分の特殊な形を組み合わせているのは、と思いました。

交響曲オラフには、印象的だ「運命の動機」がみられる。強弱や音を変え、また楽器を変えてそれを演奏している。リズムの中の音、平行移動や斜行移動がみられ、運命の動機が強調されている。音を重ねるとは樹木の年輪のようにも見える。上以上に重ねて、曲や木の幅を広げているようにも感じた。また、対称が存在するのは、建築物でも美しく見え、整ったものとして感じられる。この交響曲オラフも、曲にまとまりが感じられるので、考えたとおもしろい共通点が見られる。

「交響曲第5番第1楽章」を様々なものと関わらせて考えてみたことで、一つの楽曲として捉えるだけでなく、構成を意識して聴くことにもつながり、また音楽以外のものに対しても、音楽とつなげた見方ができるようになり、新たな視点で価値を再発見でき、多面的、総合的に考える力につながる感じた。しかしつながりを意識しすぎた結果、動機の移動にばかり目を向けてしまい、楽曲全体の美しさやよさを感じる時間がなくなってしまった。音楽を聴いたとき、純粋に美しいと感じたり、感動したりする心を大事にし、そう感じるのはなぜかというところから生徒自身の知りたい、学びたい気持ちを授業につなげていくことが大切だと感じた。

The image displays a page of a musical score for the first movement of Beethoven's Symphony No. 5. The score is arranged in systems for various instruments: Flute (Fl.), Oboe (Ob.), Clarinet (Cl.), Bassoon (Fg.), Horn (Cor.), Trumpet (Tr.), Timpani (Timp.), Violin I (VI. I), Violin II (VI. II), Viola (Vla.), Violoncello (Vlc.), and Contrabass (Cb.). The notation includes notes, rests, and dynamic markings such as *pp*, *f*, and *ff*. Measure numbers 15, 20, 25, and 30 are indicated at the bottom of the score.

交響曲第5番第1楽章より



ピラミッド



コロッセウム



ブルーモスク

## 5. 実践記録 (実践事例1)

1 題材名 能と歌舞伎の違いを理解し、能の魅力を探ろう

2 ねらい

・能を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりに関心を持ち、鑑賞する学習する学習に主体的に取り組もうとする。【音楽への関心・意欲・態度】

・能を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら能の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、解釈したり価値を考えたりし、鑑賞する。【鑑賞の能力】

3 学習活動

(1) 能の印象を出し合う。

・「つまらない」「眠くなる」などの能に対する否定的な発言を取り上げ、なぜそう思うのか理由も述べさせ、本時の課題につなげる。

・歌舞伎との比較をする。

(2) 能と歌舞伎の音だけを聴き、どちらが能でどちらが歌舞伎か予想する。

・なぜそう思ったかを音楽の要素を用いながら発表する。

・既習の歌舞伎と比較をする。

◎問題解決場面 目標「能と歌舞伎の音楽の特徴から能の魅力を探る。」

・能と歌舞伎のどちらが気に入ったかを音楽の諸要素を用いて書く。

・選ばなかった方のよさも書くことで、両方の魅力に気づかせる。

(3) 能の魅力について考えを発表する。

・能のよさや魅力の様々な捉え方があることを知る。

・観能教室で自分なりの能の魅力を見つけられるようにする。

4 ESDとの関連

(1) 構成概念

I 多様性…・能と歌舞伎の同じ場面を比較し違いを理解させ、能の特徴について考えること。

・能のよさや魅力の様々な捕らえ方があることを知ること。

(2) 能力・態度

①代替案の思考力, ②未来像を予測して計画を立てる力, ③多面的, 総合的に考える力

【教科の目標(評価規準)】

能と歌舞伎の音楽の特徴から能の魅力を探っている。

(3) 教材の「つながり」

①ESD関連分野 能

②教科 国語, 社会

③題材 「能」(国語 3年)

「文化の継承と創造」(社会 3年)

(実践事例2)

1 題材名	ベートーヴェンのしかけを紐解こう
2 ねらい	・「交響曲第5番」を形づくっている要素や構造と曲想，歴史や他の芸術とのかかわりに関心を持ち，鑑賞する学習に主体的に取り組もうとする。【音楽への関心・意欲・態度】
3 学習活動	(1) 今日学ぶ作曲者と曲を知る ・ベートーヴェンの肖像画を出し，代表作を挙げてもらう。なぜ200年以上前の作曲家の肖像画を見ただけでベートーヴェンだとわかるのか，また，なぜ今もなおベートーヴェンの曲はこんなに有名なのかを問い，本時の課題につなげる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ベートーヴェンの曲はなぜ200年後の現在もこんなに有名なのだろう Vol.1 ～ベートーヴェンのしかけを紐解こう～</div> (2) 交響曲第5番第1楽章の最初の部分を聴く。 (3) 動機が何回出てくるか確認する。 ・動機がいくつも重なって全体を創り出していることに着目させる。 ・他に，同じものがいくつも重なってできているものはないか聞く。 S:「パズル」「ミルフィーユ」「ピラミッド」など (4) 線対称になっている動機に気付く。 ・楽譜を見せて，動機の形に着目させ，動機が線対称になって出てくることを確認させる。 ・冒頭の部分も動機が平行移動で出てきていることにも触れる。 (5) 他の芸術と比較する。 ・同じように線対称や平行移動で作られているものはないか聞く。 S:「雪の結晶」「タージマハル」「平等院」など (6) 動機の動きに着目し，全曲聴く。
4 ESDとの関連	(1) 構成概念 I 多様性…・運命の動機が平行移動や対称移動で出てくると，世界遺産や身の回りのものとの関連づけて考えること。 (2) 能力・態度 ③多面的，総合的に考える力 【教科の目標（評価規準）】 「交響曲第5番」を形づくっている要素や構造と曲想，歴史や他の芸術とのかかわりに関心を持ち，鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。【音楽への関心・意欲・態度】 (3) 教材の「つながり」 ①ESD関連分野 世界の美 ②教科 数学 ③題材 「平面図形」（数学 1年）